



アートは何を残せたか 震災から5年の福島・アート・地域

2016年3月6日(日)
14:45~18:30

会場：福島県立博物館講堂

特別講演

加藤種男 (アサヒビール芸術文化財団事務局長)

講演

岡部昌生 (美術家)

報告

二上文彦 (南相馬市博物館学芸員)

会田勝康 (NPO 法人 Wunder ground コミュニティコーディネーター)

モデレーター

赤坂憲雄

入場無料・申込不要

はま・なか・あいづ文化連携プロジェクトとは…

福島県立博物館が福島県内の大学、文化施設、NPO 等との連携により 2012 年から実施しているアートプロジェクト。はま(福島県の太平洋側)、なか(東北新幹線、東北自動車道が貫く福島県の中央部)、あいづ(新潟県に隣接する福島県の山間部)で展開する活動を通して、福島の文化・歴史・自然の豊かさを再発見すること、福島が抱える課題を共有し共に考える場を生み出すことを目的としています。2015 年度は、8 つのプロジェクトを実施。

詳しくはこちら → hamanakaaiizu.jp

お問合せ

はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会事務局
〒965-0807

福島県会津若松市城東町 1-25 (福島県立博物館内)

tel : 0242-28-5986、0242-28-6000 (福島県立博物館代表)

fax : 0242-28-5986 (福島県立博物館内)

■事業報告 (14:45 ~ 15:50)

2015 事業報告：事務局

いわき市でのプロジェクトについて：会田勝康

南相馬市でのプロジェクトについて：二上文彦

■講演 (16:00 ~ 16:45)

フロッタージュプロジェクトが伝える

福島 / フクシマ：岡部昌生

■特別講演 (16:45 ~ 17:30)

アートプロジェクトと地域文化：加藤種男

■クロストーク (17:30 ~ 18:30)

加藤種男・岡部昌生・二上文彦・会田勝康

モデレーター：赤坂憲雄

はま・なか・あいづ文化連携プロジェクトでは、アートプロジェクトを中心にトークイベント、ワークショップ、展覧会などを福島県内外の諸団体と協働して2012年から実施してきました。

東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故によってもたらされた被害と復興の記録、将来の復興を担う子どもたちへの取り組み、コミュニティの再生、福島の現状の発信などを目的に掲げています。

同じく重要な目的が、福島県内でのアートを介したネットワークの形成、これまでにない新たな視点を持った文化の創出です。

本フォーラムでは、これまで国内の多くのアートプロジェクトを支援し、ネットワーク化を推進してきたアサヒビール芸術文化財団事務局長加藤種男氏をお招きし、本プロジェクト参加作家、携わったNPO法人スタッフ、博物館学芸員と福島とこの国の文化政策について対話を行ないます。

震災後、原発事故後の福島でアートや文化が何を残せたか、これから何を生み出せるのか。震災・原発事故から5年目を迎え、ますます重要になってくるであろうアートや文化について、みなさんと共有し語り合う場としたいと思います。

前半では、これまで協働のパートナーとして南相馬市で「岡部昌生フロッタージュプロジェクト」「福島写真美術館プロジェクト」に携わった南相馬市博物館学芸員の二上文彦氏、いわき市で「いわきセタプロジェクト」に携わったNPO法人Wunder ground コミュニティコーディネーターの会田勝康氏による事業報告を行います。

後半は、はま・なか・あいづ文化連携プロジェクトに参加し、南相馬市・飯舘村・大熊町・石川町などで震災や原発事故の記憶の記録に取り組んできた美術家の岡部昌生氏による講演と、全国各地のアートプロジェクトへの支援、ネットワーク化を進めてこられた加藤種男氏による特別講演。

最後に、実行委員会委員長の赤坂憲雄がモデレーターを務め、出演者全員の登壇によるクロストークを行い、福島でのアートプロジェクトの可能性を会場のみなさんと共有します。

加藤種男

1948年兵庫県生まれ。アサヒビール芸術文化財団事務局長。

1990年にアサヒビールが企業文化部を創設に際し入社し、以後同社の社会貢献部門の推進役となる。98年環境文化推進部エグゼクティブプロデューサー。2001年環境社会貢献部副理事。2002年よりアサヒビール芸術文化財団事務局長。社団法人企業メセナ協議会研究部会長、日本NPO学会理事、内閣府NPO評価に関する調査委員会委員などを歴任。自身でもNPO法人アートネットワーク・ジャパン理事などを務める。著書に『社会とアートのえんむすび—つなぎ手たちの実践』（共著）『環境経営戦略事典』（共著）『文明と文化の視角—進化社会の文化経済学』（共著）ほか。芸術批評、音楽・美術プロジェクトのプロデュースも行う。

岡部昌生

1942年北海道生まれ。美術家。

北海道を拠点にフロッタージュによる表現を1977年より始める。1979年パリで「都市の皮膚」を制作。1980年代後半より広島原爆の痕跡を作品化する作業を始める。1988年のヌーサ（オーストラリア）における市民とのコレボレーション以来、ワークショップを積極的に実施、国内外の各都市で制作・展覧会活動を展開している。2007年第52回ヴェネチア・ビエンナーレ日本館（コミッショナー港千尋）。2016年あいちトリエンナーレに参加予定。はま・なか・あいづ文化連携プロジェクトの中心プロジェクトとして2012年から参加。

二上文彦

1973年南相馬市生まれ。南相馬市博物館学芸員。

1996年より野馬追の里歴史民俗資料館（現：南相馬市博物館）勤務。福島県相馬地方の伝統行事「相馬野馬追」を中心とした、相馬地方の歴史を研究。担当した映像作品『国指定重要無形民俗文化財 相馬野馬追—真夏を疾走する伝統行事』は、第11回全国地域映像コンクール（2013）にてグランプリを受賞。2014年にパリ日本文化会館で開催した「竜の如き馬—相馬野馬追と相馬焼」展（主催：国際交流基金）に展示協力し、同会場での野馬追に関する講演会も行った。

会田勝康

1983年生まれ。NPO法人Wunder ground コミュニティコーディネーター。

震災を契機にいわき市にUターン。家業の高齢者向け衣料品店の経営をしつつ、同社での共有価値創造部門、駅前地区の商店会連合会理事として地域の祭りやイベントの運営、NPO法人Wundergroundのコミュニティコーディネーターとしていわき市内でのアートによるコミュニティデザインの分野で活動中。NPO法人Wundergroundのメンバーとしていわき市の文化芸術活動に関わる。

赤坂憲雄

福島県立博物館長、学習院大学教授、はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会委員長。1999年『東北学』を創刊、以降、東北をフィールドにした民俗調査をもとに、東北への新たな眼差しを構築してきた。東日本大震災、東京電力福島第一原子力発電所事故後は、被災地を歩いた実見により、震災後の東北についての公演や著作活動を行っている。



会場：福島県立博物館 講堂（福島県会津若松市城東町1-25）

●交通案内

■JR会津若松駅から約3km ■タクシーで約10分

会津若松駅 ■まちなか周遊バス「ハイカラさん」約20分（三の丸口下車すぐ）
バスターミナルから ■まちなか周遊バス「あかべえ」約30分（三の丸口下車すぐ）

お問合せ

はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会事務局
tel：0242-28-5986、0242-28-6000（福島県立博物館代表）
fax：0242-28-5986（福島県立博物館内）



はま・なか・あいづ
文化連携
プロジェクト